

年 組 名前：

風林火山

「誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化」。菅内閣が昨年末に閣議決定した看板政策「デジタル社会の実現に向けた改革の基本方針」で繰り返し訴える。その理念は大切だと思ふ▼だが、基本方針の文章が果たして「誰一人取り残さない、人に優しい」ものかという点。「ベース・レジストリ」「アーキテクチャへの組み込み」「アクセシビリティの確保」「UI（ユーザー・インタフェース）に係る機能」などなど、カタカナ語だらけだ▼一部は欄外に補足があるが、多くは説明もなく使われている。どれだけの国民にとって、なじみのある言葉か。確かに、デジタル分野は専門用語が多く、日本語に置き換えにくい言葉もある。とはいえ「アクセシビリティ」は「誰もが利用しやすいこと」で表現できないか▼本場に「誰一人取り残さない」気持ちがあるなら。若者から高齢者まで、多様な国民の姿が見えているなら。こうした基本方針の書きぶりから変えていくべきだろう▼行政のデジタル化で政府が力を入れるのがマイナンバーカードの普及。買い物などで使えるポイント還元する「マイナポイント」事業で国民に取得を促している▼ただ、キャッシュレス決済が前提のため、決済手段を持たず、スマホやパソコンなどデジタル機器に不慣れな人は、恩恵から「取り残さ」れかねない。誘導策とはいえ「誰一人」とは遠い実情をどう捉えたらいいのだろう。(吾)

(2021年1月26日付 山梨日日新聞1面)

問1

コラムの筆者は「デジタル社会実現に向けた改革の基本方針」の文章について、どんな点を指摘しているのですか。

.....

.....

問2

どのように改善すればいいと提案しているか、具体的に書いてください。

.....

.....

問3

コラムに見出しを付けてみました。あなたならどんな見出しにしますか。

- ・「人に優しくないカタカナ語ずらり」
- ・「デジタル社会実現への基本方針」
- ・「分かりやすく日本語に置き換える工夫を」

.....